

京都 クオリアフォーラム 会報

複数の企業・大学による
共創・人材育成

Vol. **1**
2022年夏号

京都クオリアフォーラムは、
京都に根ざす大学と企業が互いの垣根を越えた交流を通して
「知の共鳴場」を実現すること、そこから新たなイノベーションを創出し、
社会実装を通して日本の科学技術、産業界に貢献し、世界をリードする
人材を輩出する事を目的として設立されました。



京都クオリアフォーラム

KQFの「Q」は京都クオリアフォーラムが目指す「知の共鳴場」というコンセプトから、水面に立った波紋が干渉する様子を表し、京紫と鴨川の流れの水色を取り入れました。

INDEX

会長あいさつ

株式会社堀場製作所 代表取締役会長兼グループCEO 堀場 厚

理事あいさつ

アカデミア代表 京都工芸繊維大学 学長 森迫 清貴

活動トピックス

- 人材育成グループ活動報告
- テーマ探索グループ活動報告

会合・イベント記録

2021年4月～2022年11月



会長あいさつ

京都クオリアフォーラム 会長 **堀場 厚**

株式会社堀場製作所 代表取締役会長兼グループ CEO

近年の日本は、先進的な研究開発とイノベーション創出において欧米先進国に後れを取り、発展著しいアジア各国にも追い上げられています。このような状況に危機感を持った前京都大学総長の山極壽一さんと私は2018年に、京都の7企業の経営者と7大学の学長が集って意見を交換する「京都クオリア会議」を立ち上げました。

この会は毎回企業と大学のトップが自ら出席してユニークな視点で歯に衣着せぬ本音をぶつけ合う場として定着しました。ここで飛び交った貴重な意見を目に見える成果につなげたいとの思いを強くした私たちは、参加企業と大学から実務レベルのトップを集めて幹事役をお願いし、真のイノベーション創出と人材育成を目的とする産学連携組織「京都クオリアフォーラム」の設立に至りました。その幹事会においても立場を超えて忌憚ない意見が活発に交換されていると聞き、頼もしく思っています。

フォーラム設立から1年が経過し、今年度はいよいよ新たな事業が立ち上がり、アカデミアと産業界が融和する「知の共鳴場」として機能することを期待しています。ここに会報の第1号をお届けしますのでご一読いただき、我々の活動をご理解、ご支援賜れば幸いです。



理事あいさつ

アカデミア代表 京都工芸繊維大学 学長 **森迫 清貴**

大袈裟かも知れませんが、現在、世界は産業革命以来の変革期にあると思います。少なくとも日本は明治維新から敗戦を経て欧米先進国へ追いつき並び追い越す、という目標で歩んできた社会価値観が揺らぎ、懐疑的になっています。

京都クオリアフォーラムのメンバーは、千年を超える歴史文化を踏まえ、今あらためて、世界、日本、京都に生きる人々にとって「よきもの」「よきこと」に繋がる研究、技術開発、人材育成を通じて貢献しようと集まっています。

活動はまだ端緒についたばかりで、成果が見えるには少し時間がかかるでしょうが、人類の歴史において、後からみれば、分岐点となっているような活動として育てていきたいものです。

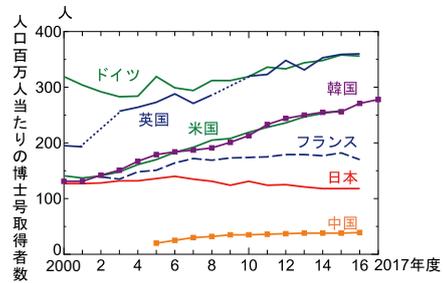
■ 人材育成グループ活動報告

人材育成グループ 主査 吉本 昌広 (京都工芸繊維大学 理事・副学長)

本グループは、企業と大学の研究者の交流を図り、人材育成につなげることを目指しています。個性豊かな産業界と多彩なアカデミアが良好な関係を築いてきた京都の伝統を生かし、学生や企業人、大学人の交流の場を提供し、イノベーションを起こして未来を切り開く人材の育成を進めます。現在、「博士課程学生キャリア支援」と「企業における学び直し・リカレント教育」の2つの事業を進めています。また、学生の就職支援の課題やあり方について継続的に議論しています。今回、「博士課程学生支援」について紹介します。

博士課程学生をとりまく状況

我が国で、修士課程から博士課程へ進学する者の数は、ピークだった2003年度の12,000人から2019年度には6,000人弱と半減しています。人口あたりの博士号取得者数でみると、主要国では増加しているのに対して、我が国では減少し、主要国の半分から1/3になっています。複雑化する社会にあって、高度な専門知識や技術、経験を有する博士人材へのニーズは今後ますます高まると予想されますが、我が国は憂慮すべき状況です。学生に対するアンケート調査によると、学費とキャリアパスへの不安が博士進学に関する主な障害です。また、社会や企業の期待と博士課程教育との間のギャップ（人材ニーズの乖離）が存在しているとの指摘が根強くあります。学費に関しては、2021年から2022年度にかけて、文部科学省による2つの博士フェロシップ制度が始まり、KQFのメンバーから6大学が、両方、あるいはいずれかの制度に採択されています。



博士キャリアメッセ

博士に対する期待や現状を本音で語りあい、博士後期課程の学生を京都・奈良で盛り上げるための第一歩として、「博士キャリアメッセ KYOTO」を2021年から開催しています。今年は、7月7日(木)に第1部「博士学生への期待とキャリアを考える」(参加161名)を開催しました。企業、大学、自治体などで活躍する博士の方々から、博士学生や修士学生らにプレゼンを行い、その後、グループに分かれて、企業の研究者や技術者らと学生による交流会を行いました。プレゼンと交流会は、KQFらしく本音が随所に飛び出す和やかな雰囲気で行われました。学生からは、「企業でも博士が専門性を発揮して比較的自由に研究に従事していることがわかった」「博士であっても昇進などで不利になるようなことはないことがわかった」といった声が寄せられました。11月1日(火)に開催予定の第2部では、博士学生からの発表を予定しています。今後はより本格的なインターンシップの実施、KQFテーマの研究参画など、もう一段踏み込んだ企業との交流を進める予定です。



■ テーマ探索グループ活動報告

テーマ探索グループ 主査 西方 健太郎（堀場製作所 理事）

テーマ探索グループでは、2020年12月に村田製作所本社ホールで開催した第1回「お互いを知ろうの会」から本格的な活動を開始しました。

その後、京都府・京都市から提示いただいた社会課題に関するピッチイベントや、農業に関する課題を深掘りするミーティングの開催、農業試験場の見学などを行ってきました。

社会課題の解決に向けて会員の知恵を結集し、イノベーションを起こす段階にはまだ至っておりませんが、少なくとも参加者がフランクに情報交換できる仲間にはなってきたと感じています。

今年度はさまざまな試みを通してテーマ探索活動を活性化し、これはという共同研究テーマを見つけたいと考えていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



2021年10月 京都府農林水産技術センターを訪問

今年の注力ポイント

1. 部会の設置「エネルギー・モビリティ」「スマート農業」「健康・医療・介護」

（8月中にメンバーを決定して発足します）

京都府・京都市へのヒアリングで課題にあげられた上記3つの分野で、今年度は課題への理解を更に深めて具体的なテーマを特定するために、部会を組織して活動します。

2. 茶摘みの課題を農業問題の例と捉えて解決策を試行する

先日の幹事会において、テーマ探索グループ副主査の村田機械(株)村田洋介さんから提示された茶摘みの課題を解決するアイデアについて活発に意見交換を行いました。茶摘み作業の機械化を目指すのではなく「お祭り」として作業の担い手を集め、VR 技術などを応用して作業効率を上げ、労働力の問題を解決するという、まったく新しいアイデアが提示され、一気に課題解決に近付いたと感じています。2023年5月の茶摘みのシーズンに向けて準備を進めます。

3. 「お互いを知ろうの会」の継続と発展

さまざまなアイデアを持ち寄って互いを紹介するイベントとして、その効果が確かめられたので、年間2回開催する定例イベントとして活性化していきます。

会合・イベント記録



テーマ探索グループ会合

2021.04.20 / 2021.07.12 (於：京都リサーチパーク)



京都府農林水産技術センター見学会

2021.10.06



会員交流「お互いを知ろうの会」第3回

2021.12.01

others

- 京都クオリアフォーラム設立記者発表 2021.05.13
- 人材育成 WG 会合 (於：京都リサーチパーク)
2021.05.11 / 2021.10.13
- 「博士キャリアメッセ KYOTO2021」
第一部 2021.11.01 第二部 2021.11.30
- 京都クオリアフォーラム代表者会議 2021.12.02
- 幹事会 (2022 事業計画) 2021.12.02
- 京都クオリアフォーラム定時総会 2022.05.18
- 「博士キャリアメッセ KYOTO2022」
第一部 2022.07.07 第二部 2022.11.01
- 幹事会 (事業推進活動) 2022.07.22

NEW!!

京都クオリアフォーラム理事会

アカデミア：植木 朝子(同志社大学学長)、黒坂 光(京都産業大学学長)、塩崎 一裕(奈良先端科学技術大学院大学学長) 竹中 洋(京都府立医科大学学長)、塚本 康浩(京都府立大学学長)、仲谷 善雄(立命館大学学長)、森迫 清貴(京都工芸繊維大学学長)
経済界：足立 正之(㈱堀場製作所代表取締役社長)、上田 輝久(㈱島津製作所代表取締役会長)、垣内 永次(㈱SCREEN ホールディングス代表取締役 取締役会長)、鈴木 順也(NISSHA ㈱代表取締役社長 兼 最高経営責任者)、樋口 章憲(三洋化成工業㈱代表取締役社長)、堀場 厚(㈱堀場製作所代表取締役会長 兼 グループ CEO)、村田 恒夫(㈱村田製作所代表取締役会長)、村田 大介(村田機械㈱代表取締役社長)、山口 悟郎(京セラ㈱代表取締役会長)



〒 600-8813
 京都市下京区中堂寺南町134
 京都リサーチパーク
 ASTEM 棟 305 号室
<https://kyoto-qualia-forum.jp/>